

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひなたスコーレ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2026年1月20日		～	2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発：15名	(回答者数)	児発：6名
○従業者評価実施期間	2026年1月20日		～	2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月8日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○WISC-IVや新版K式、K-ABCなど、医療機関等で受検された検査結果とご家庭からの聞き取り、園や学校での様子を総合的にアセスメントとして、事業所で課題設定を行っている。	○ご利用前の面談などを通じて、現在の困りごと、ご家族が期待されることなど聞き取りしている。 その聞き取り内容と持参してくださる検査結果を踏まえて、課題設定や個別の支援計画を立案している。	○ご持参いただくことが多い心理検査や発達検査の読み取りを全ての職員ができるように、研修会をしている。チームでアセスメント行うことで、より多角的な課題設定ができると考えている。
2	○同法人内に、相談支援事業所、保育所等訪問支援事業所があることで、情報を共有し、よりご家庭のニーズや対象児の実態に応じた課題設定をし、適切な支援を導入できる。	○家庭や所属している園の様子、置かれている環境を知ること、ご家族のニーズに対応した療育を実施していける。	○ご家族や所属先の担当の先生を事業所に招致し、課題や支援方法の共通理解を図っていく。
3	○同法人内に、事業所を退所された利用者、その兄弟への支援、交流の場として、地域の民家を利用して、家庭学習のフォローや英会話教室を行っている。	○ご家庭における家庭学習の負担を軽減させるため、また療育卒業後の不安の軽減ができればと考えている。	○ボランティアの募集などを行い、開所できる時間や曜日を増やしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○園の先生方へ、療育内容、支援方法の周知をする機会が少ない。	○利用児のほとんどが、並行通園をしているため、先生方が来所できる時間帯ではないこと。	○長期休業中を中心に、並行通園されている園へ事業所への来所案内をお送りしていく。
2	○送迎を行っていないため、ご家族の就労などが障壁となり、ご利用いただけないケースがある。	○事業所としては、ご家族に送迎して頂く機会を情報共有、困りごとの把握の大事な機会と考えている。	○今のところ、送迎は考えていない。
3	○就学後ご利用を希望されているニーズに対応できないこともある。	○就学後の環境の変化を見通して、放課後の過ごし方のニーズを明確にできていないケースもある。	○同法人内に、事業所を退所された利用者、その兄弟への支援、交流の場として、地域の民家を利用して、家庭学習のフォローや英会話教室を行っている。